



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
発行責任者 中川喜久子
2020.6.29

全教北九州

検索

2020春闘交渉特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

教職員の生活といのち・健康を守るための真摯な対応と 具体的な施策の実行を要求

2020年度春闘交渉

6月19日(金)、全教北九州市教職員組合は、北九州市教育委員会と春闘交渉を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、当初の予定より一カ月遅れました。
今回の交渉では論点を絞り、教職員の賃金・待遇と人事評価の二点について要求や意見の交換を行いました。

(要求書の内容は、組合ホームページをご覧ください。)

教職員の賃金・待遇の改善、 充実について

新型コロナウイルスにより景気は著しく悪化しているなか、公務員の賃金引下げは景気をさらに落ち込ませることにつながります。また、新型コロナウイルス感染症対応、「新しい生活様式」下での教育課程の編成や実践などで教職員の負担も増加しています。すべての教職員に労働の対価としての賃金を維持することを要求しました。

また、今年度より会計年度任用職員となった学校支援講師の賃金が、月額制から日額制への変更により賃金の低下が危惧されます。年収の変化を注視し、下がるようであれば従来の月額制に戻すことを要求します。

雇用確保の観点からも、労働条件を含めた会計年度任用職員や常勤講師などの待遇改善は必要です。

教職員の人事評価について

人事評価の賃金リンク導入については、これまでも反対してきました。

学校教育は利潤追求を目的とする企業とは違います。この制度の導入は、教職員に不満や分断・格差を生み教育活動の停滞にもつながります。学校には馴染まない賃金リンク導入は絶対に反対です。

現在、主幹教諭・指導教諭・期末手当の職務段階別加算が8%対象職員(主に55歳以上)に対し、今年度から人事評価が翌年の期末手当の支給額に反映されることはあまり周知されていません。

教育委員会に対し、教職員に賃金リンクを周知するとともに、教職員全体に制度を拡大しないように要求しました。

新型コロナウイルス感染症対策についても交渉

教室での新型コロナウイルス感染症への対策を行うなかで、20人学級が子どもたちへの目が行き届き、ちょうどいい学級規模と感じた先生も多数いたと思います。

ピンチをチャンスに！これをきっかけに、少人数学級の拡大を今こそ進め、子どもたちに豊かな学びを保障しましょう。また、少人数学級実現で教員の長時間過密労働の解消、「働き方改革」推進も図るべきです。

教育課程について

—教育課程の実施について、今年度未だに終了できるのかという不安が現場にあるがどうか。

指導一課からは、今のペースでいけば3月に終了できると聞いている。コロナ陽性者が出た時の休校に要する期間も専門家等の意見により短くなってきた。今後、冬場になってからの感染状況により終了の見通しが持てない時は、再度委員会の判断を職場に伝える。

教育委員会の指示が遅い

—教育委員会からの指示が遅く、教職員への周知、子どもたちへの指導が下校に間に合わない等、現場が混乱した。改善の方策は。

少しでも早く、夕方や夜に連絡を入れて、スケジューリング的には現場の皆さんにご迷惑をかけていると思っている。

給食の配膳・配食について

—現場の実態を考慮し、実情に合った方策の提起をお願いしたい。

委員会も諸々の方策を検証しながらガイドラインを出している。ガイドラインに加えて、各学校でも児童生徒の実態に応じた方策を検討し、工夫もしてほしい。
本来の業務以外の負担について

—校内の消毒作業や、特別支援学校でのスクールバス乗務員補助などで、教員本来の業務ではない業務が増えているがいかがなものか。

6月議会で補正予算が組まれ、業務補助員は当面8月までは雇用できるようになった。今後補助員の確保に努め全校配置できるようにしたい。

